

【用語】 猥ニ―勝手に、規則を無視して 所を御はらひ―居村から追
い払うこと、追放刑の一種 御巢守―鷹見役のこと 川浦村・岩氷村
―ともに群馬郡倉淵村 御巢鷹見―山々を巡回して巢鷹発見や御巢鷹
山に人が近づかないよう監視する役 惣百姓―村中の本百姓をいう
【解説】 御巢鷹山とは、將軍の狩猟用の鷹を捕獲するため、鷹が巢を
かけた森林または巢をかけるのに適した森林を幕府が特別に指定し、
嚴重に保護を加えた山のことである。上野国内では甘楽郡さんらくぐんの山中領地
域、吾妻郡の浅間山北麓地域、赤城山北麓の小松村こまつむら（利根村）地域など、
深山幽谷の地が指定された。これは、狩猟用の鷹は雛のうちに訓練す
る必要がある、早くから保護しなければならなかったこと、また鷹は
多分に警戒心が強く人目を避けたところに巢を作るという習性がある
ことなどによる。

この文書は、烏川上流域の川浦御巢鷹山の取締りに関する岩氷・川
浦の両村民の連判証文である。内容は、御巢鷹山の取締りを従前どお
りに行うこと、御巢鷹山の境目の立木は勝手に伐採しないことを誓約
している。御巢鷹山がいつ頃から指定されたのか明らかでないが、幕
府の御留山おとめやまであることから周辺住民が自由に出入りして伐木や採草を
することは堅く禁止された。山の管理には鷹見役が任命され、彼らは
毎月数回ずつ区域内を巡回して巢鷹の発見、侵犯者の監視、巢鷹の献
上などの役割を負っていた。この文書にみえる御巢鷹見六右衛門は、
吾妻郡本宿村（吾妻町）の名主であり、林守を兼ねていた。